

浜田港の和船巾着網漁業について*（抄録）

安達 二郎

浜田港には全国的にも珍しい和船巾着網という漁業がある。もともと1953年頃、愛媛県、長崎県から導入されたもので、他県ではすでに消え去ったものが、浜田港では、いぜんとしてまき網漁業の主体となって残っている。しかし、1985年1月、浜田港の7統の和船巾着網漁船のうち、2統が機船巾着網に転向した。

その原因として考えられることは、荒天に強いため、出漁日数の増加が期待されること、機動性のあることから漁場範囲が広がるであろうとの期待などの漁獲努力の向上にある。したがって、今後残りの5統の和船巾着網も除々に機船巾着網に転向していくものと考えられる。

このような状態にあるので、将来のために和船巾着網がどのようなものであったかを記録保存しておくことは適切なことであると思われる。また、浮漁類の資源研究を続けていくうえにおいても現実の漁業を熟知することも必要なことと考えられる。

要 約

浜田港の和船巾着網漁業の漁法、漁場などについて紹介した。

- 1) 好漁場の特徴としては、大きな天然礁、瀬のあることである。
- 2) マサバの漁場はマイワシ漁場よりも沖合よりに形成される傾向がある。
- 3) 一網あたり漁獲量の分布型は負の二項分布をする。魚種別の一網あたり漁獲量の平均および分散は、各漁種の資源水準の高低の判断のもとになると考えられる。
- 4) 漁場水深と漁獲量の関係は、マイワシの場合無関係で、マサバでは漁場水深の深いところが漁獲量が多いようである。

* 日本海ブロック試験研究集録 第6号（日本海区水産研究所 1985）に発表した。